

いかで頑張る佐渡姫津

姫津漁業協同組合婦人部
部長 白 瀬 ハ ナ

1 地域と漁業の概要

姫津は、佐渡相川町の中心街より約10km離れ佐渡観光でもメインコースとなっている尖閣湾や、渚百選に選ばれた達者海岸に隣接する風光明媚な漁村です。

昔から漁業を中心に発展した佐渡でも有数の漁業専業地区で姫津漁港を中心に約100隻の漁船があります。漁業種類は、いか釣、板びき網、えび籠、刺網が中心で最も水揚げが多かった昭和57年には4億4千万円もありましたが平成8年には2億9千万円にまで減少しました。特にスルメイカが水揚げ金額の半分以上を占めていましたが価格の低下のため3割程度に下がったことが大きく影響しています。

2 婦人部の組織と活動

婦人部は昭和39年11月に発足し、当初の部員は100余名もいましたが、高齢化と漁師の後継者が少なくなったことから現在では34名となってしまいました。役員は、姫津地区を10区に分けてそれぞれの区より1名ずつ選出し、その役員の内選で部長、副部長を選んでいます。役員の任期は2年です。活動は、月1回の貯蓄推進と、豆炭の共同購入や魚食普及で年会費千円です。

3 課題選定の動機

昭和58年頃よりサラリーマンがふえ、カッパを着て働く漁業者も少なくなるばかりです。どうかして昔の賑やかな活気ある港にもどらせる事ができないかと会合の時など部員と話し合いをしておりました。平成4年に佐渡汽船観光より小学生の修学旅行で「いかの一夜干体験学習」の話があり、漁協の専務と相談し、良い事だから実行に移すことにしました。また、一夜干体験だけでは物足りないから「いか汁」でもごちそうしてはどうかということで始めました。

4 実践活動状況及び効果

最初の平成4年は5校でしたが、翌年には、十日町共立観光からも申し込んでくるようになり、10校を超え7年からは、いか飯も提供するようになりました。9年には、4月に6校、5月に6校、6月に2校、10月には東京の武蔵工芸大学付属中学生が200人も来てくださり全部で900人位でした。体験はイカを実際に婦人部の指導を受けながら包丁で捌き、それを婦人部が乾燥させ後日学校に送付します。

体験当日は、いか汁やいか飯も婦人部で用意しております。当初は1尾の体験でしたが1尾では、お父さんの酒のつまみにしかならないから2尾にして欲しいとの要望で増

やしました。市販のものよりおいしいとの評価を得ています。また、小学校最後の修学旅行の思い出になり、いか汁やいか飯が大変おいしかったという子供や優しく指導してくれたおばさん達に感謝しますというお便りもたくさんいただきましたし、あとで親子で佐渡探検隊という名称で再度来てくれた生徒さんもいます。婦人部員も漁港の活性化、魚食普及や佐渡観光にも貢献しているとの思いで喜んで参加して下さいます。子供達からは1人1,300円（人数によって変動）いただき、婦人部員には時給900円支給し、材料費等を支払って残金が生じた場合は婦人部の会計に積立ることとしています。

5 いかイカまつりに参加して

地域の活性化のために7月20日の「海の日」にいかイカまつりというイベントを姫津漁港で行いました。

焼いか、いか汁、いか飯、いかの塩辛、いか一夜干、酢付けいか、いか焼そば等いかづくしの内容で、いか汁いか飯と酢付けいかを漁協婦人部で担当し、いか焼そばは若妻会、焼いかは地区婦人会、いかの塩辛体験は船主会、いかつりゲームは地区青年会等でそれぞれ分担しました。

各団体の役員で実行委員会を組織し、組合長を会長に15名の実行委員、スタッフは92名の大世帯で何回も会議を開催し、準備にあたりました。

当日は、天候にも恵まれ2,500人ものお客さまに来ていただき久しぶりに昔の姫津の漁村に返った気分でした。婦人部は一週間も前から準備しましたが当日は、つくってもつくってもまにあわず、特に100名を超えるダイバーが昼食用にといか飯を購入したため、いか飯も酢付けいかも午前中で売り切れしました。

活力ある若妻会、青年部、経験豊富な漁民婦人部、部落住民が一丸となって行った1日の行事でした。今回は、財団法人日本離島センターから50万円の助成金をいただき極力価格を安くし、いかの消費拡大を前面にだしたためもうけも少なく、随分と疲れましたが大きな充実感が残りました。また、NHKテレビの「ひる時日本列島」にも出させてもらい大いにイカや地区をPRしました。

6 波及効果

この活動を開始してから婦人部から離れていた人達がまた戻って来てくれ婦人部活動が活発化しました。

また、他地区の子供達へのいかの一夜干体験が地区の人達からも注目され、ぜひ地元の小学生達にも参加させて欲しいとの声があがり、学校のPTAを中心に2年前から、地元の小学生を対象にして一夜干体験を始めました。このような体験やイベントにより魚や漁協への親密感が増えました。

今年の4月には、久しぶりに漁業後継者が2名も就業することになっていますがこのような活動が良い影響を与えたものと喜んでいます。

7 今後の計画と問題点

10年には高速道の開通で会津からも体験の話がきていますしこれからも増加が見込まれます。修学旅行の一環としておこなっていますので時期が集中します。1日午前午後

2回で200名程度ならば受入可能ですがそれ以上になると、いか汁やいか飯の提供が大変です。

また、婦人部も高齢化と減少傾向にあるので今後の運営が心配です。9年の10月に佐渡地区漁協婦人部協議会の魚価安対策勉強会でも講師として話をしましたが、佐渡全体で観光振興や地域おこしの一環として取り組む必要があると思います。

修学旅行は佐渡へ

観光協会待 会津の小学校教諭が名所視察

福島県会津地方の小学校の修学旅行担当教諭がこのほど二泊三日で、佐渡の代表的な観光地を視察した。十月二日に磐越自動車道が全通、会津―佐渡間が半日交通圏に短縮することから、修学旅行誘致のため、佐渡観光協会などが招待した。

会津地区の小学校教諭一行二十人は、佐渡汽船や佐渡観光協会の職員らの案内で相川町の佐渡金山や大間湾、小木町のたらい舟など

山間部の会津地方の小学校約百校の修学旅行先は、かつて新潟市が定番コースだった。しかし、昭和三十九（一九六四）年の新潟地震を契機に、日本三景の松島（宮城県）などに移っていった。



佐渡名産のイカの一夜干しを体験する福島県会津地方の小学校教諭一行

松島とは時間、旅費とも引けをとらなくなる。来年、はじめて磐越道で一校でも体験していただけた。



一夜干体験



いか汁

いかイカ
まつり

旬の味覚大ウケ

相川町姫津



特産生かし地域おこし

相川町姫津の姫津漁港で二十日、姫津漁業協同組合が首領を取った「姫津いかイカまつり」が盛大に行われた。同まつりは、姫津漁協の水揚げの目玉がイカなのでイカを通しての地域おこしと旬のこの時期に大いに売り出そうと初めて企画した。この日は真夏の太陽が照りつけて水銀柱がぐんぐんと上がり、島内外から新鮮なイカを求めて約二千人のファンが続々と会場に足を運んだ。

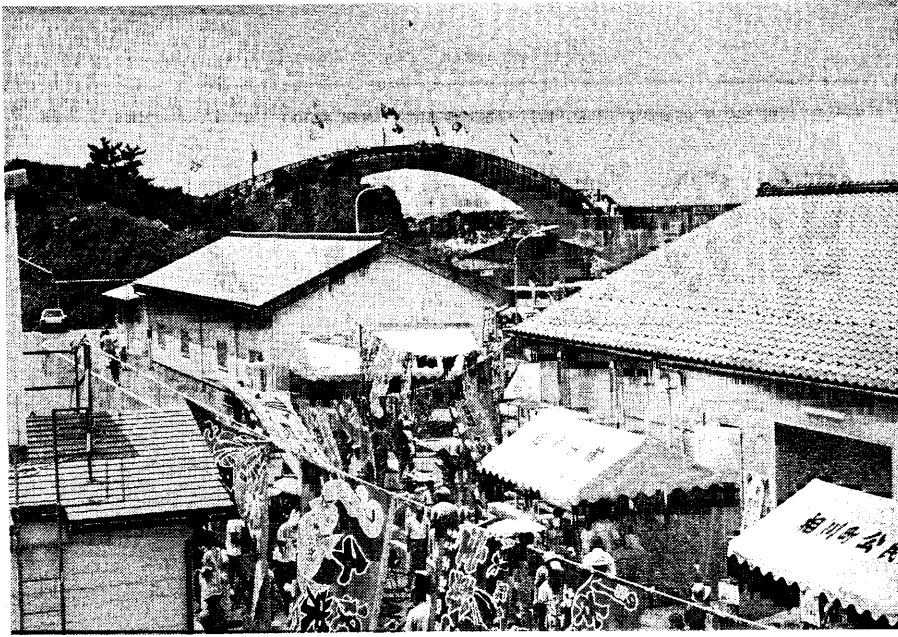
会場入り口には大漁旗がはためき、メイン会場の漁港内広場には焼きイカコーナー、イカ焼きそばコーナー、特産品コーナーなどのテントが並び、漁協構内には姫津特有のイカ汁の販売やイカの塩辛手作り実演、イカ飯の作り方コーナーがあり、それぞれのコーナーには人垣ができ、買い求める家族連れの長い列ができた。

初のイベント2000人

漁協が頭 各コーナーに長い列

森川森之助組長は「こんなに多く人が来てくれるとは思わなかった。県外ナンバーも目立ってたね。イカだけでも十分地域おこしや活性化につながる事が分かった。これも漁協青年部はじめ地域全体が燃えたせいです」と話し「イカづくしは大成功。来年もどーんとやりますよ」と張り切っていた。

いかイカまつり



いか飯



酢付けいか



いか焼



いか焼そば



塩辛体験